

流出路を介した 眼圧下降治療の 現在と未来

日時 2017年6月23日(金) 12:30~13:30

会場 Room6 (福岡国際会議場2F Exhibition Square①)

座長 相原 一 (東京大)

房水流出路は線維柱帯路とぶどう膜強膜路の2経路あると言われており、これらは本来の房水流出経路であるため、その抵抗を減らすことは病態の面からは理にかなっていない。最近、線維柱帯路に対しては薬物治療ではROCK阻害薬が登場し、また手術治療ではtrabeculotomy ab externoに代わり、いろいろな手術方法やインプラントが登場してきている。さて、これらの手段を用いて線維柱帯路へアプローチした場合、どれくらい眼圧が下がるだろうか。本セミナーの導入として、基本的な房水流出路の解剖と現在までの知見をまとめ、眼圧下降の可能性について解説させていただき、東京大学の藤代貴志先生に、侵襲を減らした緑内障手術方法の総称であるminimally invasive glaucoma surgery (MIGS)を目指して開発された術式のうち、両流出路への術式の変遷を紹介して頂くことにした。そして、岡眼科クリニックの岡義隆先生に最近認可された線維柱帯切除術用のデバイス、Kahook Dual Bladeを用いた最新の手術方法を紹介して頂き、今後の流出路への手術的アプローチによる眼圧下降治療の現状と未来について検討してみたい。

演者1



相原 一 (東京大)

流出路を介した眼圧下降の可能性

演者2



藤代貴志 (東京大)

流出路再建(MIGS)の変遷

演者3



岡 義隆 (岡眼科クリニック)

新しいab interno線維柱帯切除術用デバイス
「Kahook Dual Blade(KDB)」の使用経験